

第5回分子制御分野セミナー

The Ubiquitin Proteolytic System: From Basic Mechanisms through Pathogenesis of Human Diseases and onto Drug Targeting.

Dr. Aaron Ciechanover
Technion-Israel工科大学医学部
生化学教授
2000年度ラスカー賞受賞者



日 時：平成15年12月4日(木) 16:30 ~ 18:00

場 所：学舎4階 大講義室

ユビキチン修飾系はE1/E2/E3と呼ばれる3種の酵素群の働きで標的タンパク質をユビキチン化し、分解へと導く翻訳後修飾系です。

Ciechanover博士は1978年にユビキチン修飾系をエネルギー依存性タンパク質分解系の一部として発見した発見者の1人であり、生化学的手法を用いたユビキチン修飾メカニズムの解明、ユビキチン修飾系が細胞周期制御・異常タンパク質分解に関与することを世界ではじめて明らかにするなど先駆的な業績を残されています。

1990年代になり爆発的な進展をみるユビキチン依存性蛋白質分解系の生物学的意義に関する研究の基礎を築いた先駆的な業績は非常に高く評価され、2000年にラスカー賞を受賞されるに至っています。

本講演では、ユビキチン依存性タンパク質分解系研究の現況と、種々の疾患への関与・その制御による創薬の可能性などについてお話し頂きます。

主 催 大阪市立大学大学院医学研究科